

八街市

「のどかさ」と「便利さ」とが 共存する安心して暮らせる八街

千葉県と言えば、「落花生」。
そんなイメージを固定させるほど、強いうま味を持つ落花生がたくさん八街市で育ち、日本有数の生産量と味を誇っています。

八街市は、千葉県北部のほぼ中央に位置し、市の中心部は市街地を形成して、周囲には平坦な畑作地帯、西部や北部に水田地帯が点在するなど、豊かな自然が多く残っています。

この肥沃な大地と都心から近いという地理的条件を活かした都市近郊農業を基幹産業とし、八街市は発展してまいりました。主な農産物は、にんじん、すいか、さつま芋、里芋、生姜、落花生であり、「八街産落花生」は、千葉県の地域ブランドとして地域団体商標に登録されており、落花生を専門に売っている小売店が市内各地にあり、その店舗数でも日本です。

また、八街産のにんじん等を使用した「キャロットジュース」や、八街産の生姜を使用した「八街生姜ジンジャーエール」、「八街生姜ジンジャー」



落花生を専門に売っている小売店が市内各地にあり、その店舗数でも日本です。

「エールドロップス」などが民間で商品化されるなど、6次産業化も進み、新たな特産品も生まれています。

そのほか、豊かな自然の中で落花生などの掘り取り体験ができる観光農園や乗馬体験ができるスポットなど、みなさんが知らない素敵な場所がたくさんあります。

近年は、新たな民間の取り組みとして、八街市の小谷流地区の里山を利用した愛犬と一緒に楽しめる日本最大級の複合型リゾート「小谷流の里ドギーズアイランド」を核とした大型リゾート開発が進められているほか、このリゾート地に隣接し、構造改革特区として認定された「八街市ワイン特区」を活用したワイン醸造も行われており、今後も、豊かな自然環境と良好な生活環境が調和した「のどかさ」と「便利さ」とが共存する八街市の魅力を活かし、行政と地域・企業等が一体となって、「安心して暮らせる八街」の実現に向けた取り組みを進めています。



八街市で生産されたワイン。

南房総市

豊かな自然を活かして 地域の魅力を高める

南房総市は、房総半島の南端に位置し、北側には千葉県最高峰の愛宕山をはじめ、富山、伊予ヶ岳などの緑濃い山々が連なり、三方を東京湾と雄大な太平洋に囲まれた美しい景観に恵まれています。

特産品は、皇室に献上している房州枇杷をはじめ、苺や蜜柑、アワビ、鯨など、海の幸、山の幸が豊富にあります。

また、東京都心、千葉市や横浜市から車で70分の距離にあつて利便性が高く、夏は涼しく、冬は暖かく、年間を通じて暮らしやすい地域です。

産業は、農林水産業と観光業が盛んで、特に、温暖な気候を活かした冬の露地花栽培と花摘み観光、国定公園に指定された海岸線に色とりどりの花畑が広がる風景は南房総市の象徴です。

道の駅は市内に八つあり、数としては岐阜県高山市、郡上市と並んで全国で最多です。海の近くや山の近くなど、それぞれの道の駅に違った個性があり、新鮮な野菜



レトロな雰囲気が魅力の「岡本棧橋」。

や花、果物、海産物の販売が行われ、レストランでは「びわカレー」や「鯨料理」など、特産品を使ったお食事も提供しています。

他には、日本で唯一、料理の神様を祀る「高家神社」や日本で初めての洋式灯台である「野島埼灯台」、南総里見八犬伝の舞台となった「富山」などの観光スポットも数多くあり、サーフィンや海水浴など海のレジャーも盛んです。

最近では、百年ほど前に造られた「岡本棧橋」が注目され、レトロな雰囲気に魅力を感じて訪れる人が増えています。

南房総市の財産である豊かな自然、歴史資産を活かして地域の魅力を高め、「また訪れたい」「住んでみたい」「暮らし続けたい」と感じていただけるよう、これからも努力してまいります。

印西市

自分らしく過ごせる 住みよさ実感都市の実現へ

印西市は、都市と自然が調和し、市民の皆さんが住みよさを実感できるまちづくりを進めています。

利根川・印旛沼・手賀沼などの水資源や里山に代表される豊かな自然環境に恵まれた本市は、都心から約40km、成田国際空港から約15kmと利便性が高い場所に位置しています。特に、千葉ニュータウン地区には、強固な地盤と高度な都市基盤を背景に、住宅をはじめ、大型商業施設やデータセンターなどの企業が集積しています。

色とりどりに輝ける拠点に

子育て世代を中心に、人口、世帯数ともに増加が続く千葉ニュータウン中央駅圏に「住みよいまちの豊かな暮らしを育む複合拠点をコンセプトとした(仮称)千葉ニュータウン中央駅複合施設整備事業を進めています。事業エリア内には、令和7年4月の開館に向け、多種多様な行政ニーズに対応するための健康・福祉・子育てに



JR成田線が走る木下地区には、駅周辺のにぎわいの創出を目的として、令和5年9月に木下駅前になぎわい広場を開設しました。総面積約1万3千平方メートルの芝生広場では、今年新たに夏祭りを開催したほか、印西になぎわいフリーマーケット&軽トラ市が毎月行われるなどし、県内外から多くの皆さんが訪れ、にぎわいを感じる場となっています。

にぎわいを生み出す

関する窓口や、隣接する県立北総花の丘公園と一体的に利用できる開放的な芸術ホール、カフェなどを配置した複合施設を整備しています。その後も、民間クリニックや立体駐車場などの建設を進める予定です。複合施設を含めたエリアの愛称は、市民の皆さんからの募集や投票の結果などを参考に「コスモスバレット印西」に決定。多くの皆さんに親しまれ、誰もが色とりどりに輝き、過ごせる拠点となることを目指します。

大網白里市

笑顔あふれる まちづくりを目指して

大網白里市は、九十九里平野のほぼ中央に位置し、西の丘陵部、中央の田園部、東の海岸部という自然豊かな風土と都心への優れたアクセス機能を併せ持つまちです。

平成25年1月1日には、千葉県で37番目の市として、単独での市制施行を実現しております。

昨年、市制施行10周年を迎えた本市は、これまで一貫して、「未来に向けて、みんなであつくりたい・住みたい・住み続けたいまち」を市の将来像として掲げ、各種施策に取り組んでまいりましたが、現在もその実現に向けて、市民の皆様とともに魅力的で元氣なまちづくりを進めてまいります。

なかでも、急速に進む人口減少や少子高齢化への対応を本市の重要課題と位置づけ、「子育て支援館」や児童館を備えた複合施設「子育て交流センター」を整備し、行政・地域が



一体となって子育てを支援する体制づくりを進めるとともに、不妊治療費の助成をはじめ、通学定期券購入費や結婚後の新生活費用の補助等、各種支援制度の充実を図り、安心して結婚・出産・子育てができる環境の整備に取り組んでまいります。

また、近年、レジャーの多様化により、全国的な海離れが進んでおりますが、本市においても、海水浴客は減少傾向にあり、海水浴中心の夏季観光から通年型観光への転換が大きな課題となっております。このため、白里海岸部一帯を「海浜レクリエーションゾーン」として位置づけ、様々なイベントを開催するとともに、白里海岸の美しく豊かな自然や地域の産業・歴史・文化を活かし、新たな賑わいを創出する道の駅などの交流拠点の整備検討も進めてまいります。

今後も、本市の魅力をさらに高め、子どもからお年寄りまで、誰もが笑顔で暮らすことができる魅力あるまちづくりを進めてまいります。